

令和5年度
専門職向け認知症研修会

「認知症の人や家族の声を聞き 専門職に出来ることを考える」

2023年10月5日

公益社団法人認知症の人と家族の会
千葉県支部 合江みゆき



公益社団法人 認知症の人と家族の会

- 1980年 京都で結成され、同年10月千葉県支部結成される。
- 1992年 国際アルツハイマー病協会(ADI)に加盟する。
- 1994年 社団法人認可。介護家族と、認知症の問題に関心を持つ人々による全国的な民間団体です。
- 2006年6月 「認知症の人と家族の会」に名称を変更する。
- 2010年6月 公益社団法人の認可を受ける。
- 現在47都道府県に支部があります



おもな活動

つどい

会報

相談

支部報

年12回 毎月発行
月に1800部 印刷
会員・行政・地域への
啓発に情報の提供をしています。



つどい(交流会)



いやしの場
情報の交換
身近な場所で
同じ思いの仲間として

- ・支部独自のつどい
- ・行政、社協との共催
- ・各機関からの依頼

2023年度

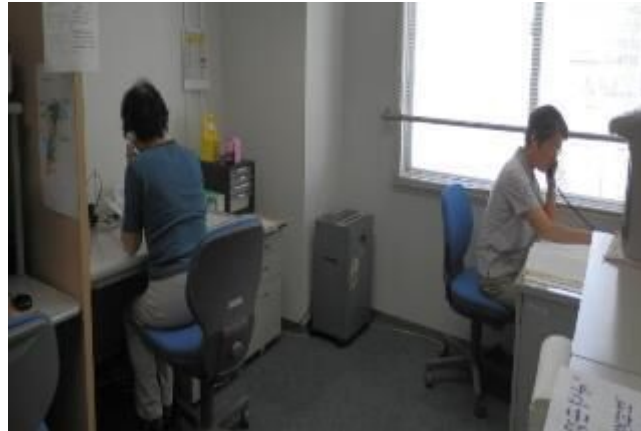
- ・千葉県委託(9箇所)
- ・千葉市委託(6箇所)
- ・船橋市委託(6箇所)



電話相談 ちば認知症相談コールセンター

2022年度

相談件数
1150件
内面接相談
12件



家族の会の活動

ホームページによる情報提供

若年認知症への取り組み

世界アルツハイマーデー(9月21日)の街頭行動

調査・研究

全国研究集会

行政への要望・提言

国際的な活動

- 2004年国際アルツハイマー病協会国際会議開催
- 2017年国際アルツハイマー病協会国際会議開催





9月21日

JR千葉駅前・津田沼駅前で
1700枚を配ります

世界アルツハイマーデー
リーフレット配り



2023年度

世界アルツハイマーデー記念講演会

「もっと知ろう もっと語ろう 認知症」

日時 10月6日(金) 午後1時～4時

場所 千葉市文化センター3F アートホール

講演 「認知症とともに暮らすこと」

～SHIGETAハウスの経験から～

東京慈恵会医科大学精神医学講座教授

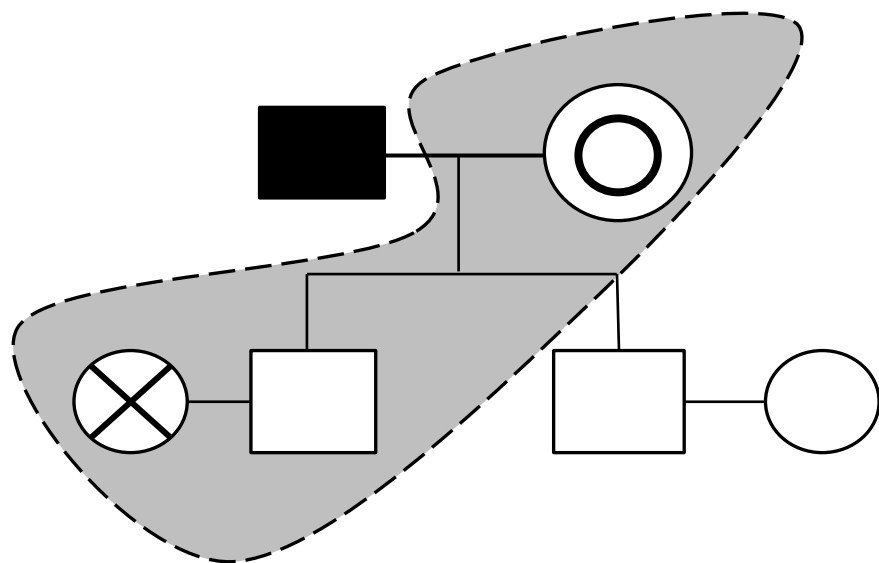
日本認知症ケア学会 理事長

繁田 雅弘氏





自己紹介



ジェノグラフ

1990年

義母の変化がみられる

1994年

仕事を辞め在宅介護へ

1995年

家族の会に入会

1999年

世話人となる

2009年

94歳で看取り終わる



家族がたどる4つの心理的ステップ

杉山孝博氏

- 第1ステップ
戸惑い・否定（異常な言動や行動に悩む）
- 第2ステップ
混乱・怒り・拒絶（精神的・肉体的に疲労）
- 第3ステップ
あきらめ・割り切り（付き合う覚悟と割り切り）
- 第4ステップ
受 容
(理解が深まり本人の心理を自分に置き換えられる)

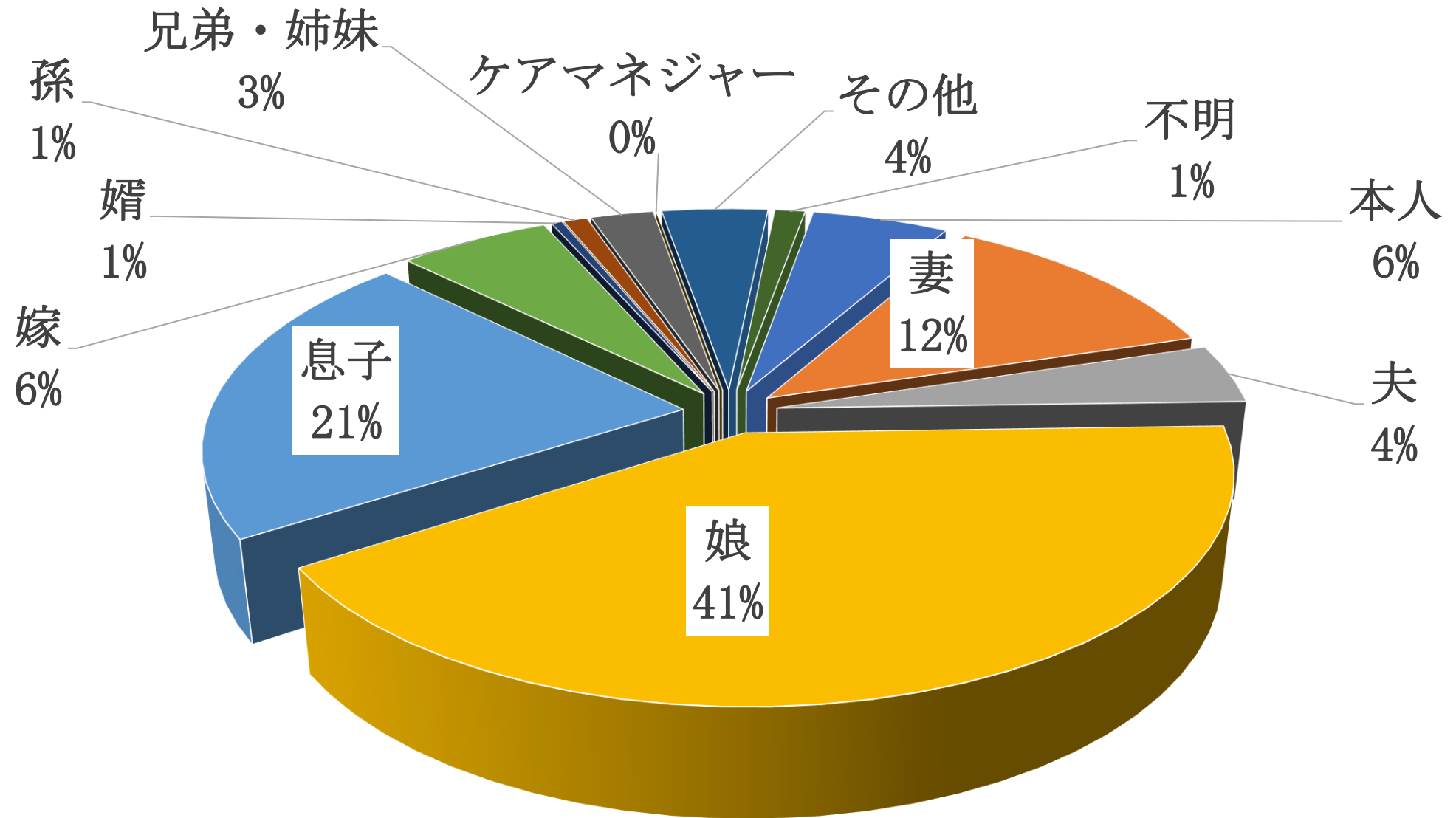


* 家族構成の変化が介護に変化を * 会の活動からみる家族の変化

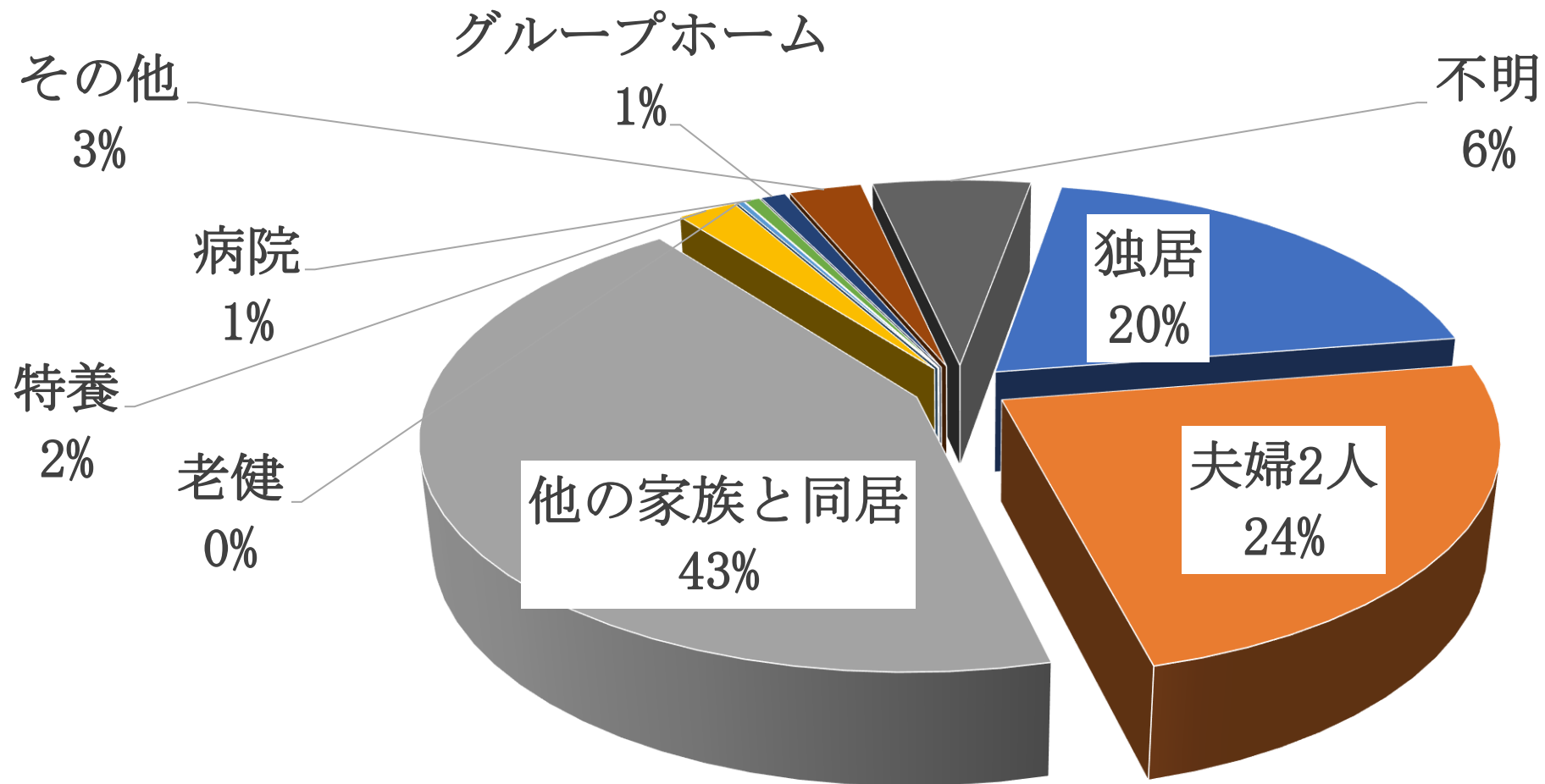
- 介護者の半数が娘・息子
 - ・ 男性介護者の増加
 - ・ 老老介護（配偶者介護）の増加
 - ・ シングル介護
 - ・ 晩婚により育児と介護が同時に
 - ・ 少子化により4人の親の介護



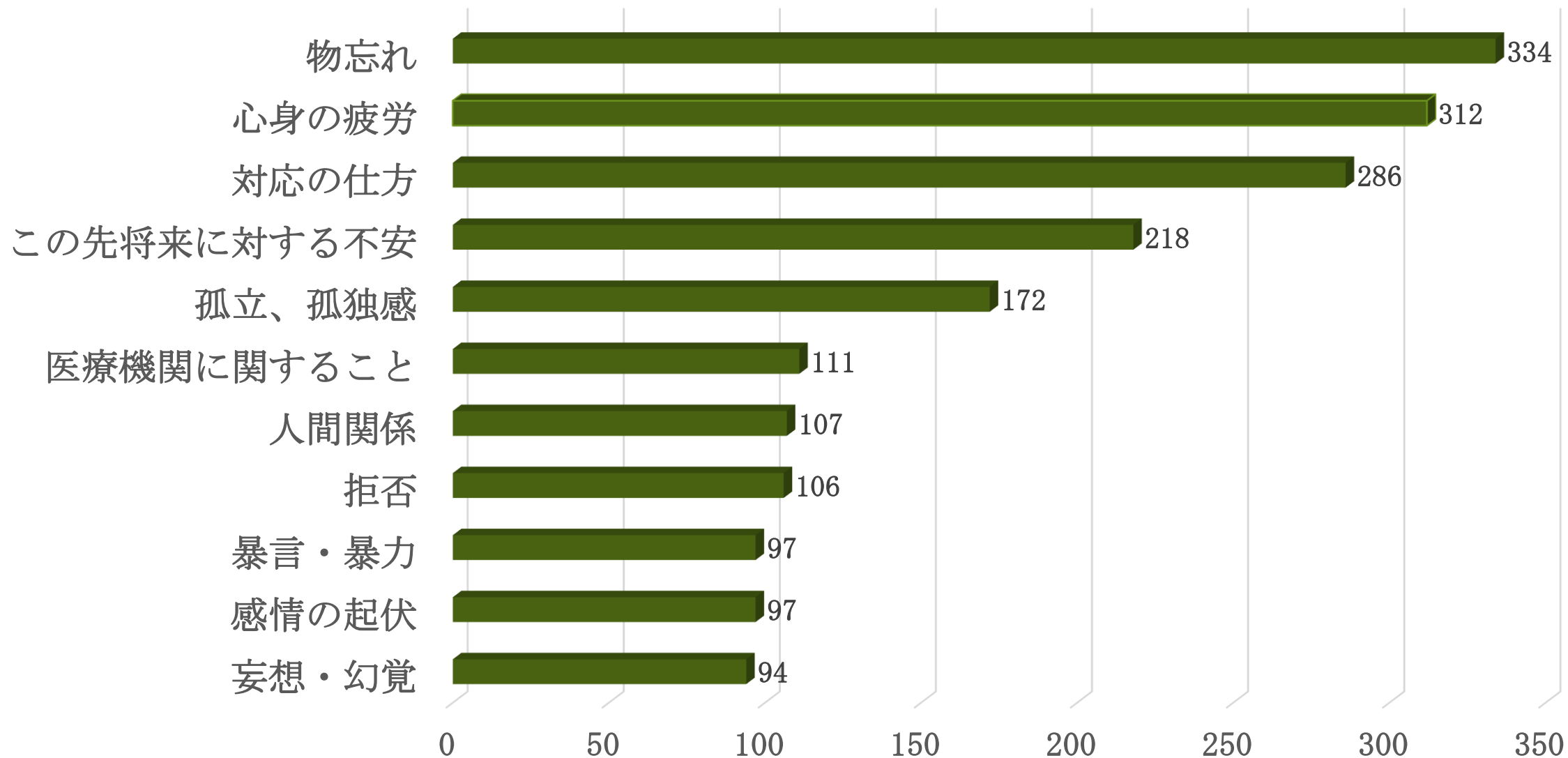
対象者から見た相談者の続柄 (ベース：全体1150件)



対象者の生活状況 (ベース：介護関連の相談1127件)



相談内容：上位11項目 (ベース：全体1150件、単位：件数)



若年性認知症の問題



ケアの受け皿不足
就労問題
経済的問題





本人・家族交流会



介護者のストレス

- 病気になる前の関係性
- 家族間の介護方法の違いによるストレス
- 精神的、肉体的ストレス
介護の中での自分の行動・発言に
ストレス
- 孤独・将来の見えないストレス
- 経済的ストレス 他



介護家族の思い

- ・家族は、できるだけ在宅で介護がしたい。
しかし、思いだけでは難しい現実。
- ・家族は認知症であることを周りになかなか
伝えられないでいる
- ・あたたかい声掛けが、何より嬉しい。



認知症の人は 毎日が不安の連続

- * 認知症の人が一番初めに気がつく
新しいことが覚えられない
出来ていた事が出来なくなる
「もうろくした」
「ばかになった」
「頭がもやもやする」
- * 残存機能の活用



認知症になって思うこと (認知症の人の声)

良い薬ができて治ったら、もう一度働きたい。

今度は私が働いて、奥さんを楽にしてあげたい
(越智俊二さん)

できないことが増えたが、できることも沢山ある。

(佐藤雅彦さん)

病気をオープンにしようと思った。サポートをし、支えてくれる人がたくさんいることを知ったから。(丹野智文さん)



認知症になって思うこと (認知症の人の声)

- ・施設や病院に閉じ込めるのではなく、買い物、喫茶店など社会に出て行き、認知症になる前と変わらない暮らしを。
- ・特別の人ではなく、理解するのに時間がかかる人だと認識し、コミュニティの一員として受け入れてほしい。



認知症の人と家族への支援

福祉サービスの利用

地域の力

家族の会



介護の中では

介護生活の中で一番多く時間を割いているのが、「見守り」です。

声を掛けずとも、見守ってもらっているだけで、

本人も介護家族も地域で安心して生活ができます。

認知症という病気を理解して、沢山の目を利用して安全な生活を営めます。



家の中ではこんな事が起きています



皆さんの気づきが支援

・認知症への理解

- ・特別な病気ではない
- ・見守りが大きな仕事
- ・記憶できないことへの「人間の杖」
- ・今までと変わらない、本人・家族との関わり
- ・いつもと違う。(顔色・言動・衣服等)
- ・変だと思ったら、勇気を出して
- ・お隣さん同士のお付き合い



もっと知ろう もっと語ろう 認知症

2023年度 世界アルツハイマーデー標語



ご清聴ありがとうございました

